

# 平成26年度事業報告書

学校法人 獨協学園

(目次)

	頁
I 獨協学園の沿革	1
II 平成26年度事業報告	
1 獨協学園の概要	
(1) 設置する学校(学部)及び学生数	3
(2) 役員・評議員数	4
(3) 教職員数	4
2 学園全体及び部門別事業の概要	
(1) 学園全体	5
(2) 学園本部	6
(3) 獨協大学	7
(4) 獨協医科大学	12
(5) 姫路獨協大学	18
(6) 獨協中学高等学校	21
(7) 獨協埼玉中学高等学校	25
3 財務の概要	
(1) 貸借対照表	29
(2) 資金収支計算書	29
(3) 消費収支計算書	30
(4) 主な財務比率	30
(5) 有価証券の状況	31
(6) 借入金の状況	31

## I. 獨協学園の沿革

獨協学園は、明治のはじめドイツ文化を中心とする西欧文化の粋を摂取して、わが国文教の興隆をはかる目的で設立された獨逸学協会（明治 14 年・西暦 1881 年）に、その端を發しています。当時の文明開化の先端を拓こうとしたこの協会が、人材を養成するために設けた学校が獨逸学協会学校でした。

- 明治 14 年(1881) 西周、桂太郎、加藤弘之ら獨逸学協会学校の設立準備開始
- 明治 16 年(1883) 獨逸学協会学校設立 初代校長に西周（後の学士院会長）就任
- 明治 20 年(1887) 第 2 代校長に桂太郎（後の内閣総理大臣）就任
- 明治 23 年(1890) 第 3 代校長に加藤弘之（後の東京帝国大学総長）就任
- 明治 37 年(1904) 財団法人として認可を受ける
- 昭和 22 年(1947) 「財団法人獨逸学協会」の名称を『財団法人獨協学園』に変更  
校名を「獨協中学校」に改称
- 昭和 23 年(1948) 新制の「獨協中学・高等学校」発足
- 昭和 26 年(1951) 『学校法人獨協学園』として認可
- 昭和 27 年(1952) 第 13 代校長に天野貞祐（元文部大臣）就任
- 昭和 39 年(1964) 獨協大学を埼玉県草加市に開学(外国語学部ドイツ語学科、  
英語学科、経済学部経済学科)  
初代学長に天野貞祐就任
- 昭和 41 年(1966) 獨協大学経済学部経営学科新設
- 昭和 42 年(1967) 獨協大学外国語学部フランス語学科新設  
獨協大学法学部法律学科新設  
獨協学園理事長に関湊就任
- 昭和 48 年(1973) 獨協医科大学を栃木県壬生町に開学
- 昭和 49 年(1974) 獨協医科大学附属高等看護学院（現「看護専門学校」）開学  
獨協医科大学病院開院
- 昭和 52 年(1977) 獨協大学大学院法学研究科新設
- 昭和 54 年(1981) 獨協医科大学大学院医学研究科新設
- 昭和 55 年(1980) 獨協埼玉高等学校を埼玉県越谷市に開校
- 昭和 58 年(1983) 獨協学園創立 100 周年(記念式典挙行)
- 昭和 59 年(1984) 獨協医科大学越谷病院開院
- 昭和 61 年(1986) 獨協大学大学院外国語学研究科新設
- 昭和 62 年(1987) 姫路獨協大学を兵庫県姫路市に開学（外国語学部ドイツ語学科、  
英語学科、中国語学科、日本語学科、法学部法律学科）  
法人事務所所在地を「埼玉県草加市学園町 1 番 1 号」に変更

- 平成元年(1989) 獨協大学大学院法学研究科博士課程新設  
姫路獨協大学経済情報学部新設
- 平成 2 年(1990) 獨協大学大学院経済学研究科（経済・経営情報専攻修士課程）新設  
獨協大学大学院外国語学研究科（フランス語専攻修士課程、英語学  
専攻博士課程、ドイツ語学専攻博士課程）新設
- 平成 3 年(1991) 姫路獨協大学大学院言語教育研究科修士課程および法学研究科  
修士課程新設
- 平成 5 年(1993) 獨協大学大学院経済学研究科博士課程新設  
姫路獨協大学大学院経済情報研究科修士課程新設
- 平成 6 年(1994) 獨協大学大学院外国語学研究科フランス語専攻博士課程新設
- 平成 11 年(1999) 獨協大学外国語学部言語文化学科、法学部国際関係法学科新設
- 平成 12 年(2000) 姫路獨協大学経済情報学部経営情報学科新設
- 平成 13 年(2001) 獨協埼玉中学校を埼玉県越谷市に開校
- 平成 16 年(2004) 獨協大学法科大学院新設  
姫路獨協大学法科大学院新設
- 平成 17 年(2005) 獨協大学大学院外国語学研究科日本語教育専攻修士課程新設  
姫路獨協大学外国語学部スペイン語学科・韓国語学科新設
- 平成 18 年(2006) 姫路獨協大学医療保健学部新設  
獨協医科大学日光医療センター開院
- 平成 19 年(2007) 獨協大学国際教養学部言語文化学科新設  
獨協医科大学看護学部新設  
姫路獨協大学薬学部新設
- 平成 20 年(2008) 獨協大学法学部総合政策学科新設  
姫路獨協大学外国語学部外国語学科新設
- 平成 21 年(2009) 獨協大学外国語学部交流文化学科新設
- 平成 23 年(2011) 獨協医科大学助産学専攻科新設
- 平成 24 年(2012) 獨協医科大学大学院看護学研究科新設  
姫路獨協大学法科大学院廃止
- 平成 25 年(2013) 獨協大学経済学部国際環境経済学科新設  
獨協大学外国語学部言語文化学科廃止

## II.平成26年度事業報告

### 1 獨協学園の概要

#### (1) 設置する学校(学部等)及び学生数

学校および学部・学科等				(開設年度)		各年度5月1日基準		
						平成25年度		平成26年度
				収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	
獨協大学	大学院	法学研究科	(昭和52年)	29	1	29	0	
		外国語研究科	(昭和61年)	52	24	52	22	
		経済学研究科	(平成 2年)	45	7	44	9	
		法務研究科(専門職大学院)	(平成16年)	100	28	78	21	
	外国語学部	ドイツ語学科	(昭和39年)	480	602	480	588	
		英語学科	(昭和39年)	1,000	1,295	1,000	1,280	
		フランス語学科	(昭和42年)	380	476	380	477	
		言語文化学科	(平成11年)	0	1	0	0	
	国際教養学部	交流文化学科	(平成21年)	400	491	400	500	
		言語文化学科	(平成19年)	610	752	610	749	
	経済学部	経済学科	(昭和39年)	1,300	1,548	1,240	1,462	
		経営学科	(昭和41年)	1,300	1,539	1,240	1,505	
		国際環境経済学科	(平成25年)	120	149	240	288	
	法学部	法律学科	(昭和42年)	840	1,030	840	1,012	
		国際関係法学科	(平成11年)	310	398	310	388	
総合政策学科		(平成20年)	280	334	280	321		
計				7,246	8,675	7,223	8,622	
獨協医科大学	大学院	医学研究科	(昭和54年)	164	100	164	94	
	医学部	医学科	(昭和48年)	678	712	698	728	
	大学院	看護学研究科	(平成24年)	20	24	20	20	
	看護学部	看護学科	(平成19年)	400	414	400	411	
	助産学専攻科		(平成23年)	10	10	10	10	
計				1,272	1,260	1,292	1,263	
獨協医科大学附属看護専門学校				(昭和49年)	300	297	300	299
姫路獨協大学	大学院	言語教育研究科	(平成 3年)	30	19	30	12	
		法学研究科	(平成 3年)	20	16	20	21	
		経済情報研究科	(平成 5年)	20	10	20	9	
	外国語学部	英語学科	(昭和62年)	-	2	-	0	
		日本語学科	(昭和62年)	-	2	-	0	
		外国語学科	(平成20年)	500	252	450	249	
	法学部	法律学科	(昭和62年)	620	306	570	242	
	経済情報学部	経営情報学科	(平成12年)	-	1	-	0	
		経済情報学科	(平成20年)	700	469	650	369	
	医療保健学部	理学療法学科	(平成18年)	160	188	160	201	
		作業療法学科	(平成18年)	160	124	160	135	
		言語聴覚療法学科	(平成18年)	80	89	80	87	
		こども保健学科	(平成18年)	200	107	200	98	
薬学部	臨床工学科	(平成18年)	160	119	160	114		
	医療薬学科	(平成19年)	700	481	680	528		
計				3,350	2,185	3,180	2,065	
獨協中学・高等学校	中学		(昭和23年)	600	631	600	629	
	高校	全日制課程	(昭和23年)	900	587	900	595	
	計				1,500	1,218	1,500	1,224
獨協埼玉 中学高等学校	中学		(平成13年)	480	544	480	514	
	高校	全日制課程	(昭和55年)	960	1,029	960	1,039	
	計				1,440	1,573	1,440	1,553
総 計				15,108	15,208	14,935	15,026	

## (2) 役員・評議員数

5月1日基準

	26年度
理事	26名
監事	3名
評議員	58名

## (3) 教職員数

各年度5月1日基準

	専任教員数		専任職員数	
	平成25年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度
学園本部	-	-	12	11
獨協大学	211	205	153	150
獨協医科大学	809	833	3,101	3,180
(医科大学)	544	566	154	162
(看護専門学校)	19	16	3	3
(大学病院)	0	0	1,676	1,697
(越谷病院)	211	218	1,040	1,079
(日光医療センター)	35	33	228	239
姫路獨協大学	160	156	73	69
獨協中学・高等学校	56	56	8	8
獨協埼玉中学高等学校	66	67	10	10
合計	1,302	1,317	3,357	3,428

## 2 学園全体及び部門別事業の概要

### (1) 学園全体の事業概要

獨協学園は、明治のはじめドイツ文化を中心とする西欧文化の粋を摂取して、わが国文教の興隆を図る目的で設立された獨逸学協会（明治 14 年、1881 年）にその端を発しています。その後明治 16 年（1883 年）に獨逸学協会学校が設立され、獨協中学・高等学校の母体となりました。以降、獨協大学、獨協医科大学、姫路獨協大学及び獨協埼玉中学高等学校を設立いたしました。なお、獨協医科大学は附属の 3 病院と看護専門学校を有しています。

獨協学園は、「大学は、学問を通じての人間形成の場である（天野貞祐獨協大学初代学長）」という共通の教育理念を持ち、「各校の自主性、独自性を尊重しつつ、一つの法人として整合性をもって経営する」との経営方針のもと、各校が独自に運営されています。

少子化等による 18 歳人口の減少、国際情勢などの影響により、私立大学等を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しています。教育・研究・医療を通じて地域社会に貢献していく中で、社会の変化に対応し、より強固な経済基盤を確立することで、学校間競争に勝ち残っていく必要があります。

そこで、当学園では、学園及び各校が連携し、中長期計画としての「獨協学園基本計画」を平成 10 年より策定し、2 年ごとに見直しを実施しております。平成 26 年 8 月には、「獨協学園第 9 次基本計画（2014 年度）」として平成 32 年度までの計画を策定し、9 月の理事会・評議員会において承認されました。

各学校等においては、教育・研究・医療の充実を更に推進し、平成 26 年度は、主に次のような事業を実施いたしました。

獨協大学は、創立 50 周年を迎え、ほぼ 1 年間にわたり 20 以上の記念事業を実施する等冠行事を積極的に展開し、成功裡に終えることができました。また新教室棟となる創立 50 周年記念館（仮称）建設に伴い旧図書館、永久保管庫の取り壊しに着手しました。

獨協医科大学は、創立 40 周年記念事業である「教育医療棟」が今年度竣工し、併せて医療機器及びネットワーク環境の整備を行いました。また、教職員・学生環境整備を目的とした 2 棟目の寮の建設にも着工いたしました。全国的な看護師不足の中、その対応として設置する獨協医科大学附属看護専門学校三郷校の校舎建設及び設備等の準備も整い、平成 27 年 4 月に開校いたしました。越谷病院では病棟増床のため、隣接地入手に着手いたしました。さらに日光医療センターでは電子カルテシステムをはじめとするシステムの更新を行いました。

姫路獨協大学は、はりま歴史講座の開催や「地域学習ラボ」の新設等、地域と共に学び地域社会と一体となる大学を目指した事業を推進しました。管理・運営関係では看護学部の新設や文系三学部の統合・改編を目的とした人間社会学群の設置を織り込んだ獨協学園第 9 次基本計画策定を行い、安定的な大学運営に向け、様々な角度から今後の方向性を検討しました。

獨協中学・高等学校は、優れた授業実践に向けた目標管理制度や授業評価及び授業研究を

一層充実させることで深化をはかりました。また環境教育、国際化を見据えた行事及び理科教育を充実させました。施設面では太陽光発電パネルの設置等を行いました。

獨協埼玉中学高等学校は、外国語教育の充実、自習環境の整備及び環境教育の充実をはかりました。また ICT 活用の定着化に努め、同時に経年劣化等に対応した諸施設の更新や改修を行いました。

学園本部は、「獨協学園第9次基本計画（2014年度）」の作成をはじめとした理事会、評議員会及び学園運営会議等諸会議の運営、学園内諸規則の見直しや整備等を行いました。

## (2) 学園本部及び学校別事業の概要

### 〔学園本部〕

平成26年8月に開催した夏季集中討議を踏まえ、「獨協学園第9次基本計画(2014年度)」を策定し、平成26年9月開催の理事会及び評議員会で承認を得ました。

獨協医科大学附属看護専門学校三郷校及び姫路獨協大学看護学部の新設に係る寄附行為変更認可申請を行いました。

学園全体の管理運営に関わる諸課題を検討し、諸会議を開催しました。

内部監査室では、従来からの内部監査計画に基づく学園内各校への内部監査に加え、外部委託による病院のシステム監査を行いました。

(単位:百万円)

26年度事業名称	事業実績等	予算	実績	差異
1) 理事会・評議員会・学園運営会議等の運営	・学園内の意思決定機関の運営 7月の理事会は、獨協中学・高等学校において開催	1.0	0.7	0.3
2) 「獨協学園第9次基本計画(2014年度)」の策定	・夏季集中討議の実施	2.0	2.7	-0.7
3) 看護専門学校新設に係る寄附行為変更のための認可申請等	・獨協医科大学附属看護専門学校三郷校設置に係る寄附行為変更のための埼玉県への認可申請等	—	—	—
4) 姫路獨協大学看護学部新設の準備	・寄附行為変更認可申請書の提出	—	—	—
5) 学園内諸規則の見直し、新規規定の整備検討	・獨協学園寄附行為の見直し及び一部変更	—	—	—



6) 内部監査の継続実施	・内部監査室による内部監査計画に基づく学園各校への監査の実施	—	—	—
	・外部委託による病院のシステム監査	—	—	—
7) 学園史資料センターの運営	・獨協大学のキャンパス再編に伴う収蔵庫・収蔵品の移動	70.5	6.7	63.8
8) 学園応急支援資金の実施	・学園各校への状況に応じた支援の実施			
	<b>【継続事業】</b>			
	①路獨協大学への特待生奨学金制度の支援	20.0	20.0	0
	②姫路獨協大学への特別学業支援奨学金の支援	15.0	15.0	0
	③姫路獨協大学活性化取組施策支援	15.0	14.7	0.3

## 〔獨協大学〕

2014(平成 26)年度は、獨協大学創立 50 周年の節目の年として、各種周年事業を積極的に展開するとともに、次の 50 年に向け、不断の改革を進めていくべき新たな布石となる1年でした。周年事業としては、従来からのイベントを含む 20 以上の記念事業をほぼ 1 年間絶え間なく実施し、成功裡に終わることができました。加えて、本学の新たな知の拠点となる教育施設として創立 50 周年記念館(仮称)建設に着手しました。また、学校教育法等の一部改正を受け、学則及び諸規程の改正作業を行いました。なお、2014 年度に実施した主な諸施策、事業は次のとおりです。

### < 教学関係 >

開設2年目となる国際環境経済学科の運営支援を行いました。大学基準協会への認証評価申請では、昨年 10 月の大学基準協会による実地調査等を経て、同協会の「大学基準適合認定証」を受け取ることができました。英語教育の基幹でもある全学共通カリキュラムにおけるEGAP英語教育については、引き続き支援を図りました。また、各学部学科においては、学部活性化予算及び父母の会支援による教育活性化助成金を積極的に活用し、学生教育に資する事業を実施しました。法科大学院は、司法試験を取り巻く環境が開設当初と大きく変貌していることから、熟慮の結果、2015 年

度からの学生募集を停止しました。国際交流活動の推進関連としては、新たに2校との協定締結に至り、また、昨年12月には、「獨協大学の国際化・グローバル化検討部会」による答申を受けました。今後のグローバル化に向けた指針とします。

#### <学生支援、その他>

「創立50周年記念事業」関連では、昨年10月22日開催した記念式典に主賓のドイツ大使を始め、文部科学省他関係諸機関からの出席を賜り、約1,200名を迎え、盛大に挙行することができました。また、各学部・学科からも様々なアイデアをいただき、「50周年」の冠行事を積極的に展開することができました。「創立50周年記念寄付金募集」事業は、年度目標額は未達となりましたが、最終年度となる2015年度も更なる寄付金募金に努めます。なお、『獨協大学五十年史』の発刊は、2015年度となります。奨学金による経済的支援については、「父母の会」からの援助も含めて、約1.5億円規模の給付を実施しました。東日本大震災罹災学生に対しては、引き続き学費減免の特別措置を講じました。キャリア形成・就職支援では、就職活動開始時期が大きく変更となったことから就職活動支援となるセミナー等の開催も含め対応しました。また、ワーク・ライフ・バランスに関する第2期検討・調査を進めました。

#### <施設・設備関係>

西側新教室棟となる創立50周年記念館(仮称)建設に伴い、その建設場所となる旧図書館、永久保管庫の取り壊しに着手しました。竣工は、2017年の予定です。中央棟の改修は、2ヵ年計画の2年目にあたり、計画どおり外壁補修等を実施しました。35周年記念館の空調機設備は、年次計画に基づき更新を行いました。情報インフラ関連では、図書館セミナールーム、大学院共同研究室のPC等と6棟3・4階教室のAV機器の更新を行いました。なお、保有資産の健全化を図る観点からも、遊休施設である竹ノ塚の旧敬和館他跡地を予定どおりに3月に売却することができました。同時に、公衆道路として一部残る大学用地に関しての資産評価替えを実施しました。

#### <地域貢献関係等>

地域社会での生涯教育の中核を成すオープンカレッジでは、春・秋・通年170講座を開設し、受講者は過去最高の3,129名(前年度より10%増)でした。また、各研究所では、周年事業と関連させ、地域総合研究所が「地域と教育改革」、環境共生研究所が「地域からエネルギー問題を考える-スマートコミュニティの実現に向けて-」、外国語教育研究所が「外国語教育の目指すもの-中高大連携の視点から-」他、情報学研究所が「クラウドが拓く未来」他、各シンポジウム、講演会を実施しました。地域と子どもリーガルサービスセンターでは、年間166件(延1,211件)の相談に対応するなど、地域市民に対するサポート支援業務を行いました。また、夏季・春季休業期間に、高校生他に対して、引き続き図書館の開放を行いました。

(単位：百万円)

26年度事業名称	事業実績等	予算	実績	差異
<b>1 教学関係</b>				
1)国際環境経済学科開設支援	1)平成25年度に開設された「国際環境経済学科」の運営支援に努めた。	3.0	2.3	0.7
2)大学基準協会認証評価申請	2)大学基準協会への認証評価申請を行い、その結果として「大学基準適合認定証」を受理した。	4.8	4.9	-0.1
3)入試問題の点検強化	3)入試問題のさらなる公正確保を期するため、事前事後の点検を強化した。	6.7	6.3	0.4
4)「獨協大学ポータルサイト」の機能拡充	4)現機能の利便性を維持するため、サーバー増強等を図った。	3.0	0.0	3.0
5)全学共通カリキュラム英語教育の支援	5)「EGAP英語教育の充実（平成21年度大学改革推進事業採択プログラム）」の成果を受け、引き続き支援に努めた。	22.5	22.6	-0.1
6)大学院(法科大学院含む)の志願者増に向けた広報展開と司法試験合格者増への取り組み	6)大学院では、効果的な広報展開を行い、志願者増に努めた。法科大学院では、TKC全国実力確認テストの受験料の一部補助等を行った。 なお、法科大学院は平成27年度からの学生募集を停止した。	7.1	6.5	0.6
7)FD、SD活動の推進	7)FD、SD活動を推し進め、教育環境改善に努めた。	14.6	12.6	2.0
8)国際交流活動の推進(国際化に伴う留学制度の検討・調査	8)国際教育交流協議会（NAFSA）、アジア留学フェア(APAIE)などに	0.2	1.7	-1.5

含む)	参加し、新規協定校開拓に努め、新たに2校と協定を結んだ。				
<b>2 学生支援・その他</b>					
1)「創立 50 周年記念事業」の実施	1)創立50周年記念事業として、記念式典の他、関連記念事業を積極的に展開した。	}	85.0	86.6	-1.6
2)「創立 50 周年記念寄付金募集」事業	2)創立 50 周年記念事業の実施と関連して、広く記念寄付金の募集に努めた。				
3)『獨協大学五十年史』の編纂	3)『獨協大学五十年史』の編纂を行った。なお、刊行は平成27年度となる。				
4)東日本大震災罹災学生の支援	4)東日本大震災から4年が経過したが、罹災学生支援として、引き続き学費減免の特別措置を講じた。	10.0	14.9	-4.9	
5)災害救助法適用地域の罹災学生への支援策の検討	5)災害救助法適用地域の罹災学生への支援策の検討を進めている。	0.1	0.0	0.1	
6)キャリア形成教育・キャリアアカウンセリングの支援	6)変動していく就職活動への対応として、キャリアカウンセラー等による就職支援に取り組んだ。	17.1	18.2	-1.1	
7)奨学金による学生支援 (「父母の会」からの援助他)	7)「父母の会」からの支援により「獨協大学父母の会奨学金」を引き続き100名に給付した。	26.4	26.1	0.3	
8)モバイル端末対応を含めた携帯サイトの拡充	8)携帯サイトを改修し、利便性の向上に努めた。	12.0	6.9	5.1	
9)ワーク・ライフ・バランスに関する検討・調査	9)「ワーク・ライフ・バランス検討部会」による第2期「しごとと介護」について検討・調査を行った。	0.1	0.0	0.1	

10)抗体検査の実施費用補助	10)麻疹・風疹の抗体検査を実施し、費用の一部を援助した。	0.9	0.7	0.2
<b>3 施設・設備関係</b>				
1)創立 50 周年記念館(仮称)の建設計画の推進	1)創立50周年記念館(仮称)の建設に着手した。	145.0	38.2	106.8
2)第2次ランドスケープ計画の推進	2)創立 50 周年記念館(仮称)建設に伴い、施設周辺の整備等の調査・検討をした。			
3)中央棟の改修 (外壁他)	3)経年劣化した外壁改修を継続して実施した。	100.0	112.4	-12.4
4)35 周年記念館の空調機設備更新	4)経年劣化した空調機設備を基本計画に基づき更新した。	107.0	131.5	-24.5
5)事務システム基盤(ネットワーク・サーバー等の更新)	5)導入後相当年数が経過したため、ネットワーク・サーバー等を更新した。	9.4	6.1	3.3
6)次期事務情報システムの検討・調査	6)次期事務情報システムの検討を示唆した。	0.1	0.0	0.1
7)旧図書館の取り壊し	7)創立 50 周年記念館(仮称)の建設に伴い、2 カ年度に渡る旧図書館他の解体に着手した (平成 26 年度分)。	-	34.3	-34.3
8)松原団地建て替えに伴う大学用地取得等の検討・調査	8)大学用地取得等について検討・調査を進めている。	0.1	0.0	0.1
<b>4 地域貢献関係等</b>				
1)オープンカレッジ、特別市民講座の実施	1)広報強化により、本学の公開講座を広くアピールし、受講者の様々なニーズに応えるべく、春・秋・通年170講座を開設し、講座の拡充・充実を図った。	0.4	2.6	-2.2

2)地域貢献に関するシンポジウム開催(研究所等)	2)地域社会に向けたシンポジウムを開催し、情報発信を積極的に展開した。	9.6	6.0	3.6
3)埼玉県、草加市をはじめとした周辺自治体、UR都市機構等との連携強化	3)「松原団地駅西側地域まちづくり連携協定」に基づき、連携協力を図った。また、草加市文化交流事業に積極的に関わった。	0.8	0.2	0.6
4)地域市民との意見交換会等の実施	4)地域市民との交流の場として、意見交換会等を実施した。	0.3	0.3	0.0
5)高校生への大学施設(図書館)開放	5)夏季・春季休業期間に、高校生他に対して、引き続き図書館の開放を行った。	0.1	0.0	0.1

### 〔獨協医科大学〕

本学は、昨年度をもって創立40周年を迎え、周年記念事業である「教育医療棟」建設工事が平成26年度に竣工いたしました。また同時に、看護師の確保を目的とした「附属看護専門学校三郷校」も竣工いたしました。そして、教職員・学生環境整備を目的とした寮の2棟目となる「ドミトリーいちよう」の建設工事が平成26年度より着工となりました。

大学病院においては、教育医療棟の竣工に伴い、診療体制の整備と効率化を目的として、最新のMRI装置の導入及びネットワーク機器の新設を行いました。また、震災等の災害時も病院機能を維持するため、3期目となる耐震補強工事を行いました。

越谷病院においては、昨年度に引き続き、放射線集約に伴う研究棟改修工事を行いました。

日光医療センターにおいては、医療の質向上及び安全推進を目的とし、電子カルテシステムを始めとする各部門システムの更新を行いました。

単位 百万円

26年度事業名	結果・備考等	26年度予算	実績	差異
《医科大学》				
1. 教学関係				
①医学部				
1) 全国共用試験	1) CBT: コンピューターによる医学知識試験の実施	4.6	5.1	-0.5
	OSCE: 「医療面接」「頭頸部」「胸部」等7	1.9	2.1	-0.2

	つのステーションでの模擬患者を相手とする実技試験の実施(ともにH17年より実施)			
2) 早期医学・地域医療体験	2) 期間集中型科目「コミュニティーヘルスイターンシップ」「アドバンスドコミュニティーヘルスイターンシップ」、選択科目「地域包括医療実習」の開設による本学附属病院や学外の福祉施設等での体験学習の実施	2.7	1.7	1.0
3) 学生の海外研修	3) 学内試験選抜の学生の海外大学病院等における約2週間の見学実習の実施(H13年より実施)	11.0	10.0	1.0
4) 医師国家試験対策合宿	4) 卒業試験・医師国家試験の合格に向けて、約1週間の短期集中合宿を実施(H12年より実施)	3.5	4.3	-0.8
5) 国際交流等の拡充・充実	5) 国際交流の拡充や支援、海外大学との提携等の検討、海外視察の実施	5.0	0.5	4.5
6) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	6) 本学を含む国公立8大学の共同申請による「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」に参加	7.0	9.0	-2.0
7) 国際交流推進	7) 海外の大学・教育研究機関等との交流及び国際協力事業の推進	8.0	2.0	6.0
8) 教務事務システム更新	8) 現システムでは、学生データ一元管理等の業務が対応困難なため、新システムを構築し業務効率を向上する	50.0	0.0	50.0
②看護学部				
1) 領域別臨床看護学実習	1) 小児・母性・成人・老年・精神・地域の各領域における実習の実施	2.7	4.0	-1.3
2) ふれあい看護学実習 I	2) 地域の健康な人々とのふれあいを通して、価値観や健康保持のための看護の役割等の学習	0.8	1.0	-0.2
3) 基礎看護学実習 I・II	3) 病院において、患者の心理状態や良好な人間関係の構築等の学習及び入院患者の生活環境の理解や看護援助の必要性・重要性を体験学習	0.5	1.2	-0.7

4) 地域看護学実習Ⅱ	4) 企業の健康管理、学校保健、産業保健活動の実際を環境調整・安全管理の視点から指導保健師と共に地域活動を実践	1.1	1.1	0.0
5) 国家試験対策	5) 国家試験対策コーナー等の環境整備、模擬試験・特別講義等の実施(H22年より実施)	3.5	3.1	0.4
6) 学生の海外研修	6) 海外の医療、看護業務の学習及び国際感覚を習得するため海外にて1週間程度の実習の実施	2.8	2.8	0.0
7) 専門看護師コース	7) 論文コースに加え、専門看護師コースの設置に伴う海外実習、学外施設実習の実施及び機器備品の購入	8.2	1.9	6.3
8) 成績管理システム更新	8) 新学生管理システムの導入(看護学部及び大学院看護学研究科)	22.0	0	22.0
<b>2. 施設・設備関係</b>				
1) 教育医療棟建設 〈創立40周年記念事業〉	1) 教育医療棟の建設(設計費74.1を含む)	4,927.5	4,927.5	0.0
2) 教職員・学生寮建設	2) 教職員・学生寮の建設(設計費33.6、水道加入権8.6を含む)	1,723.2	1,689.6	33.6
3) 附属看護専門学校三郷校建設	3) 附属看護専門学校三郷校新校舎の建設(設計費25.5を含む)	1,312.8	1,312.8	0.0
4) 実習棟 347 実習室改修工事	4) 換気システム更新工事	200.0	157.9	42.1
5) 各大学棟用途変更による改修工事	5) 教室・研究室の改修工事	100.0	78.7	21.3
6) 教育研究・実習用機器備品	6) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	441.7	497.2	-55.5
7) 図書	7) 教育研究用図書の整備充実	40.7	34.1	6.6
<b>3. 管理運営関係</b>				
1) 附属看護専門学校三郷校開設	1) 学内ネットワーク環境整備、校具・教具・図書の購入等	370.1	219.0	151.1
2) 広報関係事業	2) 学内だより発行、ホームページの充実及びマスコミ対応を含めた広報業務全般の充実	22.5	10.5	12.0



3) 看護師確保対策	3) 看護師不足に対応すべく全学を挙げた積極的な募集活動の強化、外国人看護師の採用	12.8	12.2	0.6
4) 障がい者雇用支援月間関連事業	4) 障がい者雇用に対する理解と啓発及び更なる雇用の推進を図るため、研修会の実施、特別支援学校への寄贈、対象校の拡大等	6.3	1.0	5.3
<b>《大学病院》</b>				
<b>1. 医療活動関係</b>				
1) 統合医療情報システム	1) 電子カルテシステム、PACSシステムの維持管理	573.6	536.6	37.0
2) PETセンター	2) PET(陽電子放射断層撮影装置)によるガンの早期発見、詳細な部位の特定	399.3	392.4	6.9
3) 栃木県ドクターヘリ事業	3) ドクターヘリ運航業務の委託他	199.7	210.3	-10.6
4) ガンマナイフ用コバルト60線源の交換	4) 経年劣化によるガンマナイフ用コバルト60線源の交換	141.3	120.6	20.7
<b>2. 施設・設備関係</b>				
1) 本館耐震工事(3/6期)	1) 耐震補強工事(設計・監理費15.0を含む)	385.0	179.0	206.0
2) 新館1階ハイブリッド手術室新設工事	2) 手術室増室及び設備更新工事	250.0	235.3	14.7
3) 中央監視盤設置工事	3) 中央監視盤の設置工事	95.0	94.0	1.0
4) 用途変更による改修工事	4) 室内改修工事	80.0	20.9	59.1
5) 本館一次空調機更新工事	5) 空調機の更新工事	41.0	31.4	9.6
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	350.0	350.0	0.0
7) 教育医療棟へのMR検査室の移転	7) 磁気共鳴断層撮影装置(MRI装置)・MRI画像処理システムの新設・アップグレード、MR検査室新設に伴うネットワーク機器等設置	1,310.0	1,139.6	170.4
8) 放射線治療装置の更新	8) 放射線治療装置 Infinity 一式の代替購入	529.2	529.2	0.0
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	50.0	50.0	0.0

<b>《越谷病院》</b>				
<b>1. 医療活動関係</b>				
1) オーダリングシステム	1) オーダリングシステムの構築、各種システム更新	526.0	503.0	23.0
2) SPD業務委託拡充	2) 薬剤部における在庫管理、消費データ管理等の業務の拡充	33.6	33.6	0.0
3) 診療報酬改定対応	3) 診療報酬改定に対応した業務の効率化	13.0	12.0	1.0
<b>2. 施設・設備関係</b>				
1) ライナック棟新築工事	1) ライナック棟の新築工事	600.0	0.0	600.0
2) 研究棟2階放射線集約工事	2) 越谷病院整備計画による放射線集約工事	450.0	411.0	39.0
3) 放射線部集約に伴う改修工事	3) 北棟・外来棟の改修工事	234.0	222.0	12.0
4) 研究棟ビルマルチエアコン更新	4) 経年劣化による更新工事	64.0	0.0	64.0
5) 空調機・換気機等更新	5) 経年劣化による更新工事	50.0	13.0	37.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	200.0	164.0	36.0
7) 放射線機器整備	7) ライナック及びCT装置の更新	700.0	200.0	500.0
8) オーダリングシステム更新	8) オーダリングシステムのリース機器導入及び更新	160.1	47.0	113.1
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	5.0	1.0	4.0
<b>《日光医療センター》</b>				
<b>1. 医療活動関係</b>				
1) 業務外注化	1) 施設管理、検体検査、医事業務、給食、情報処理等の外部委託	270.8	262.1	8.7
2) 診療報酬改定システム変更	2) 医事システム及び電子カルテシステム他の変更作業	9.7	3.7	6.0
3) 医療情報システムの充実	3) 電子カルテシステム及び部門システムの充実	156.7	156.1	0.6
<b>2. 施設・設備関係</b>				
1) 機械室熱源設備更新工事	1) 機械室熱源設備の更新	90.0	0.0	90.0
2) 2号館改修	2) 経年劣化によるトイレ改修工事他	20.0	0.0	20.0
3) エレベーター更新工事	3) 配膳用エレベーターの更新	15.0	0.0	15.0

4) 医療設備機器整備	4) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	150.0	149.9	0.1
5) 透析室設備整備	5) 透析機器及び周辺設備の購入	75.0	71.4	3.6
6) 病院群輪番制病院設備整備補助事業	6) 血管内超音波画像診断装置の購入	22.1	0.0	22.1
7) ペーパーレス会議システム	7) タブレット端末導入による会議運用の効率化	9.0	2.2	6.8
<b>《看護専門学校》</b>				
<b>1. 教学関係</b>				
1) 体験学習	1) 看護に必要な技術を習得するため、技術演習や小グループによる体験学習を実施	3.1	3.1	0.0
2) 領域別看護学実習	2) 各領域において3週間1クールとして病院や施設での実習を実施	2.0	2.0	0.0
3) 学生情報・成績管理システム	3) 学生情報・成績管理システムの導入	10.0	0.0	10.0
4) 専任教員の研修・研究	4) 看護教育内容、方法の改善や教員の質の向上を図るため、学外の研修会や研究会への参加	1.6	1.1	0.5
<b>2. 設備関係</b>				
1) シミュレーションモデル整備	1) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	1.4	1.4	0.0
2) 教育用ソフトウェア導入	2) マークシートリーダー導入	1.4	1.1	0.3
<b>3. 管理運営関係</b>				
1) 創立40周年記念式典 〈創立40周年記念事業〉	1) 創立40周年記念式典の開催	2.4	3.5	-1.1

## 〔姫路獨協大学〕

- (1) 教学関係では、英語 e ラーニングシステムを導入し、全学共通科目の英語教育とは別に、e ラーニング教材を自学自習する講義を設け、学生の基礎学力向上に努めました。
- (2) 地域関係では、はりま歴史講座「姫路が生んだ戦国武将 黒田官兵衛」を全 10 回の日程で開催し、多くの地域の受講者の方々に満足していただける内容を提供することができました。
- (3) 管理・運営関係では、獨協学園第 9 次基本計画策定に向けて、学内にワーキンググループを設置し、看護学部の新設や文系三学部の改編を含めて、様々な角度から本学の方向性を検討するとともに、専門業者によるニーズアセスメント調査等からの意見も集約し、今後の安定的な大学運営に向けた基本計画の策定を行いました。
- (4) 施設・設備関係では、姫路獨協大学創立 25 周年記念事業の一環として、教育環境及び大学生生活環境の改善のため、講義棟の全教室の内装全面改修、什器（机・椅子）の入れ替えや、LED 照明交換工事を行いました。  
また、地域の方々と共に学び、地域社会と一体になる大学を目指し「地域学習ラボ」を新設しました。

(単位:百万円)

26 年度事業名称	事業実績等	予算	実績	差異
1 教学関係				
1) 英語 e ラーニングシステムの導入	1) 全学共通科目の英語教育とは別に、e ラーニング教材を自学自習する講義を設け、アルク教育社の英語 e ラーニング教材を導入しました。	3.0	1.7	1.3
2) 医療保健学部国家試験対策	2) 医療保健学部学生の国家試験対策のため、模擬試験等を行いました。	3.0	2.7	0.3
3) 姫路獨協大学活性化取組施策	3) 本学に在職する専任教職員が取組計画書を企画・立案し、事業目的に沿った取組を選考委員会において選考し、実行しました。	15.0	12.8	2.2
4) 薬学部国家試験対策	4) 薬学部 6 年生の国家試験対策のため、模擬試験等を行いました。	22.0	13.6	8.4
5) 特待生制度 (I 種)	5) 入学予定者のうち、優秀な資質を有する者に対し、①入学年度の年間授業料全額免除、②2 年次以降は、前年度の	69.0	70.7	-1.7

6) 特待生制度(Ⅱ種)	成績により、年間授業料の半額を免除しました。 6) 入学予定者のうち、優秀な資質を有する者に対し、①入学年度の年間授業料半額免除、②2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の25%を免除しました。	14.0	17.5	-3.5
7) 薬学部「地域連携指定高等学校制度」	7) 入学者のうち、地域連携指定する播州地域の高等学校からの入学者に対し、①入学年度の年間授業料半額免除、②2年次以降は、前年度の成績により、年間授業料の25%を免除しました。	30.0	34.3	-4.3
8) 特別学業支援奨学金	8) 現行の、主として母子・父子家庭等、経済的に困窮している家庭を対象に支援している「学業支援奨学金」の対象者以外で、経済的理由により学業継続が困難な学生に対し、月額5万円を支給しました。	15.0	16.8	-1.8
9) 緊急支援奨学金	9) 主たる家計支持者が死亡、会社の倒産・解雇・病気により就労困難等で、やむを得ず失職・退職した等の理由により、家計が急変した学生に対して、半期又は全期の授業料相当額を支給しました。	1.0	0.6	0.4
10) 薬学部早期体験学習	10) 医療施設や製薬企業等の現場の実体験を通じて、“生命の尊厳”や患者の気持ちに配慮する思いやりなど、薬剤師として身につけるべき豊かな人間性を涵養しました。	1.0	0.3	0.7
11) 薬学部学外実習	11) 5年次生は1～4年次に身を付けた専門知識をもとに病院実務実習・薬局実務実習を行いました。	50.0	46.3	3.7

12) 医療保健学部学外実習	12) 4年次生は1～3年次に学習した知識・技術、マナーなどを実際の現場において検証しました	51.0	52.9	-1.9
13) 学習支援センター	13) センター併任教員が基礎学力向上部門、学習相談部門、学生データの収集分析部門、入学前教育部門、日本語学習支援部門において、学生指導を実施しました。	3.0	0.5	2.5
2 地域関係				
1) 駅前サテライト教室	1) 市民を対象とした公開講座を開催するほか、大学院の授業、就職活動の拠点としても活用しました。	8.0	8.0	0
2) 公開講座(獨協講座、カルチャーカフェ、シニアオープンカレッジ等)の開催	2) 各学部から提供された多数の講座を開講し、地域の方々に学びの場を提供しました。	3.0	0.8	2.2
3 管理・運営関係				
1) インターネット出願システムの導入	1) 受験生の利便性を図り、また、本学においても願書受付処理の軽減を図りました。	3.0	1.7	1.3
2) ニーズアセスメント調査の実施	2) 基本計画策定に向けて、本学の今後の方向性を検討するため市場調査を実施しました。	2.0	1.6	0.4
3) 新聞広告費	3) 広報の効率を高めるため、各媒体の効果検証をオープンキャンパス参加者数や志願者数等から精査し、業者・媒体選定を行いました。	48.0	53.3	-5.3
4) 大学案内	4) 在学生や写真コンテンツを多用し、志願者により訴求力のある内容に刷新しました。	15.0	12.6	2.4

4 施設関係				
1) 講義棟什器・内装改修	1) 講義棟の A 教室の什器・内装の改修を行いました。	74.0	80.0	-6.0
2) 講義棟共用部分改修工事	2) 講義棟ホール・学生ホール扉・屋上防水補修を行いました。	70.0	20.8	49.2
3) 講義棟バリアフリー対策工事	3) 平成27年度の実施に計画を変更いたしました。	30.0	0	0
4) LED 照明機器交換工事	4) 本部棟の照明機器を LED 照明に交換しました。	12.0	15.4	-3.4
5) 学内売店改修工事	5) 学生の利便性を高めるため、学内にコンビニエンスストアを設置し、建物の内外装工事の実施を行い、設備什器を取得しました。	20.0	6.5	13.5
5 設備関係				
1) 医療保健学部 AV 機器更新	1) 平成27年度の実施に計画を変更いたしました。	7.0	0	7.0

### 【獨協中学・高等学校】

#### 1. 教学関係

##### ①目標管理制度のより一層の深化

26年度は、全部門目標を冊子化して全教職員間に配布し、目標の共有化を図りました。併せて新たに全教員による部門報告会議を学期毎に行い、進捗状況を確認し、更にそれを受けて教務・進路・生活・情報・入試の各部長と管理職が部長会議を行い、本校教育の問題点の洗い出し、具体的な対策の検討を行うなど、部門目標達成のために制度の深化をはかりました。またアセスメントシートの見直しや全教職員対象の研修を実施し、アセスメント制度のブラッシュアップを行いました。

##### ②学習指導・進路指導の充実

成績処理システムに新たに大学受験結果データを加えて、6年間の成績と大学合不合格結果の相関が即座に把握できるようシステムのブラッシュアップを図り、担任による生徒への進路指導に活かせるよう指導環境の改善を行いました。また、模擬試験等の実力試験の分析を丁寧に行い、各教科の課題と対策の検討に活用すると同時に、生徒個人への具体的指導に活かしました。

③授業評価と授業研究の充実

授業評価が良質な教育実践に繋がるよう、業者の見直しを行い、アンケート項目や実施方法を再検討して、新たな授業アンケートを試行的に実施しました。その分析結果は、各教員の振り返りばかりでなく、新年度の教育目標に反映するよう、校長所信等にも盛り込まれて、活かされることになっています。

④環境教育の充実

太陽光パネルを全面的に作り変えるなど、ビオトープの基盤施設を改修して、虫が自生可能な生態系の再現に努めました。一方、屋上壁面緑化についてはその維持管理の改善に力を入れています。また、次年度本校で開催予定の全国高校生自然環境サミットに向けて、今年度開催の群馬大会に教員を派遣し、大会運営のノウハウを確認すると同時に、次年度開催の準備に取り掛かりました。

⑤国際化を見据えた行事の充実

海外研修として定着しているシアトルホームステイやイエローストーンサイエンスツアー、一昨年度から始まったハワイ修学旅行やドイツスタディツアーを引き続き実施し、グローバル志向の社会要請に応えつつ、本校が目指す生徒の英語運用能力の増進・科学的関心や環境問題への深い理解の醸成・異文化理解や平和学習の推進に努めました。

⑥理科教育の充実

昨年度に引き続き、物理実験装置等を中心に設備の充実を進めました。また実験器具を活用した授業によって、理科学力のレベルアップを目指しました。

⑦中学入試と広報活動

広告費を見直して、有力塾関係の広告媒体にシフトした予算配分とし、塾との関係強化を行いました。また学校案内を全面的に改定し、更に受験生本人向けのマガジンの発行やプレゼンテーション用スライドをリニューアルするなど、広報ツールの刷新に努めました。

⑧チューター制度

週3日対応だったチューターを週5日配置することで、生徒の自習環境を整えました。また施設改修で捻出した特別室を自習室として活用し、それまで日によって異なった自習室を固定化して空き時間でも利用しやすくする等、生徒の利便性を高めました。

2. 施設・設備関係

- ①ビオトープや停電時の予備電源としても使用できる太陽光発電パネルを設置しました。
- ②日新寮グラウンドに屋外炊事(飯盒炊飯等)の際に使用する給水小屋を設置しました。
- ③教員室にコピー機、PC、プリンター、給茶機を更新しました。

(単位:百万円)

26年度事業名称	事業実績等	予算	実績	差異
1 教学関係 ①目標管理制度のより一層の深化	26年度は、全部門目標を冊子化して全教職員間に配布し、目標の共有化を図りました。併せて新たに全教員による部門報告会議を学期毎に行い、進捗状況を確認し、更にそれを受けて教務・進路・生活・情報・入試の各部長と管理職が部長会議を行い、本校教育の問題点の洗い出し、具体的な対策の検討を行うなど、部	2.7	2.7	0



	<p>門目標達成のために制度の深化をはかりました。またアセスメントシートの見直しや全教職員対象の研修を実施し、アセスメント制度のブラッシュアップを行いました。</p>			
<p>②学習指導・進路指導の充実</p>	<p>成績処理システムに新たに大学受験結果データを加えて、6年間の成績と大学合不合格結果の相関が即座に把握できるようシステムのブラッシュアップを図り、担任による生徒への進路指導に活かせるよう指導環境の改善を行いました。また、模擬試験等の実力試験の分析を丁寧に行い、各教科の課題と対策の検討に活用すると同時に、生徒個人への具体的指導に活かしました。</p>	0.2	0.18	0.02
<p>③授業評価と授業研究の充実</p>	<p>授業評価が良質な教育実践に繋がるよう、業者の見直しを行い、アンケート項目や実施方法を再検討して、新たな授業アンケートを試行的に実施しました。その分析結果は、各教員の振り返りばかりでなく、新年度の教育目標に反映するよう、校長所信等にも盛り込まれて、活かされることになっています。</p>	1.9	0.83	1.07
<p>④環境教育の充実</p>	<p>太陽光パネルを全面的に作り変えるなど、ビオトープの基盤施設を改修して、蛍が自生可能な生態系の再現に努めました。一方、屋上壁面緑化についてはその維持管理の改善に力を入れています。また、次年度本校で開催予定の全国高校生自然環境サミットに向けて、今年度開催の群馬大会に教員を派遣し、大会運営のノウハウを確認すると同時に、次年度開催の準備に取り掛かりました。</p>	1.5	0.68	0.82
<p>⑤国際化を見据えた行事の充実</p>	<p>海外研修として定着しているシアトルホームステイやイエローストーンサイエンスツアー、一昨年度から始まったハワイ修学旅行やドイツスタディツアーを引き続き実施し、グローバル志向の社会要請に応えつつ、本校が目</p>	3.5	3.27	0.23

	指す生徒の英語運用能力の増進・科学的関心や環境問題への深い理解の醸成・異文化理解や平和学習の推進に努めました。			
⑥理科教育の充実	昨年度に引き続き、物理実験装置等を中心に設備の充実を進めました。また実験器具を活用した授業によって、理科学力のレベルアップを目指しました。	1.0	1.0	0
⑦中学入試と広報活動	広告費を見直して、有力塾関係の広告媒体にシフトした予算配分とし、塾との関係強化を行いました。また学校案内を全面的に改定し、更に受験生本人向けのマガジンの発行やプレゼンテーション用スライドをリニューアルするなど、広報ツールの刷新に努めました。	0.9	0.9	0
⑧チューター制度	週3日対応だったチューターを週5日配置することで、生徒の自習環境を整えました。また施設改修で捻出した特別室を自習室として活用し、それまで日によって異なった自習室を固定化して空き時間でも利用しやすくする等、生徒の利便性を高めました。	1.9	1.33	0.57
2. 施設設備関係				
①太陽光発電パネル設置	ビオトープや停電時の予備電源としても使用できる太陽光発電パネルを設置しました。	1.5	1.5	0
②日新寮に屋外水場設置	日新寮グラウンドに屋外炊事(飯盒炊飯等)の際に使用する給水小屋を設置しました。	1.5	1.5	0
③教員室のコピー機等OA機器の更新	教員室にコピー機、PC、プリンター、給茶機を更新しました。	2.0	5.1	-3.1

## 【獨協埼玉中学高等学校】

### 1. 主要な方針・施策

「自ら考え、判断できる若者を育てる」という本校教育の基本的方針に基づき、教育内容の充実、受験環境の整備に向けた改革を更に推進しました。

また、併設大学への進学実績と他大学への進学実績を併せ持つ幅広い進路選択が可能な学校として、併設大学との更なる連携強化に取り組みました。

### 2. 主要な事業の進捗状況

#### (1) 教学関係

##### ① 国際理解教育の推進

中学でLevin Intermediate School校(ニュージーランド)、高校でPenola Cathoric College校(オーストラリア)の各姉妹校との交換留学を実施しました。また、高校でSan Rafael Dominican University校(アメリカ)での語学研修を実施しました。

##### ② 自己点検評価とFD活動の推進

PDCAサイクルを通じて授業の向上を図るため、年度当初にシラバスを作成し、各授業の目標、教材、指導方法、進度等を明確にし、授業を行いました。2学期末には、生徒による授業アンケートを実施することにより問題点を抽出・分析し、3学期の授業の向上に役立てました。また、翌年度の授業向上に向けても反映させていきます。

##### ③ 外国語教育の充実

生徒の外国語の力を更に伸ばすために、現在中学3年生で実施している英語多読指導を他学年にも拡充し、英検、TOEIC、GTECなどの検定試験の受験を促し、そのための指導を行いました。また、英会話を中心に習熟度別少人数教育を継続しました。

##### ④ 自習環境の整備

生徒の自学自習を促すために、自習室の環境整備を進めました。更に、日常的な家庭学習を促すため、新規制定の手帳を活用した勉強マラソンを実施しました。自らの家庭学習時間数を、学年、クラス平均時間数と対比できるようにすると共に、担任によるコメントをフィードバックし、学習に対するモチベーションの維持・向上に注力しました。

##### ⑤ 環境教育

引き続き、オカワカメによる中学棟の壁面緑化を実施しました。また、前年度に拡張しましたピオトープの維持・整備を行いました。

#### (2) 管理運営関係

##### ① インターネット関係

###### 1) ホームページの充実

デザインや情報更新機能等の向上を図るべく、前年度にホームページの全面的リニューアルを実施しました。新ホームページの機能を活用し、生徒募集活動効果の更なる向上を図るべく、画面の構成や内容等の工夫に努めると共に、積極的な活用に注力しました。

2) スクールWEBの監視

生徒プロフ、掲示板、裏サイトを検索、監視し、生徒のネットいじめ、トラブルの防止および個人情報の保護に注力しました。

② ICT活用の定着化

前年度に個人情報の漏洩防止、情報の蓄積・共有化、情報伝達の効率化等を目的として教員へ業務用PCを貸与し、ICT環境を構築しました。本年度は、導入しましたシステムの安定運用に注力すると共に、ICT活用の定着化に努めました。

(3) 施設・設備関係

経年劣化等による不具合事象が発生していることもあり、空調設備の更新を順次進めました。また、式典等のメイン会場となる第一体育館の照明を更新し、壁面を改修しました。加えて、錆や腐食など経年劣化が進行している外階段や扉などの鉄製箇所について、塗装・修繕を実施しました。また、防火扉の改修を行いました。

(単位:百万円)

26年度事業名称	事業実績等	予算	実績	差異
1 教学関係				
(1) 国際理解教育の推進 異文化体験を通じての 国際人の育成	中学でLevin Intermediate School校(ニュージーランド)、高校でPenola Cathoric College校(オーストラリア)の各姉妹校との交換留学を実施しました。また、San Rafael Dominican University校(アメリカ)での語学研修を実施しました。	3.0	2.8	0.2
(2) 自己点検評価とFD活動の 推進 授業の質的向上	PDCAサイクルを通じて授業の向上を図るため、年度当初にシラバスを作成し、各授業の目標、教材、指導方法、進捗等を明確にし授業を行いました。2学期末には、生徒による授業アンケートを実施することにより問題点を抽出・分析し、3学期の授業の向上に役立てました。また、翌年度の授業向上に向けても反映させていきます。	1.5	1.0	0.5
(3) 外国語教育の充実 生徒の外国語の力の 向上	生徒の外国語の力をさらに伸ばすために、現在中学3年生で実施している英語多読指導を他学年にも拡充し、英検、TOEIC、GTECなどの検定試験の受験	-	-	-

	を促し、そのための指導を行いました。また、英会話を中心に習熟度別少人数教育を継続しました。			
(4) 自習環境の整備 自学自習の促進	生徒の自学自習を促すために、自習室の環境整備を進めました。更に、日常的な家庭学習を促すため、新規制定の手帳を活用した勉強マラソンを実施しました。自らの家庭学習時間数を学年、クラス平均時間数と対比できるようにすると共に、担任によるコメントをフィードバックし、学習に対するモチベーションの維持・向上に注力しました。	-	-	-
(5) 環境教育 壁面の緑化および ビオトープの維持・整備	引き続き、オカワカメによる中学棟の壁面緑化を実施しました。また、前年度に拡張しましたビオトープの維持・整備を行いました。	1.0	0.1	0.9
2. 管理運営関係				
(1) インターネット関係	インターネット関係 計	1.2	1.2	0
① ホームページの充実 情報発信力の向上	デザインや情報更新機能等の向上を図るべく、前年度にホームページの全面的リニューアルを実施しました。新ホームページの機能を活用し、生徒募集活動効果の更なる向上を図るべく、画面の構成や内容等の工夫に努めると共に、積極的な活用に注力しました。	-	-	-
② スクールWEB監視 生徒プロフ・掲示板・ 裏サイトの探索、監視	生徒プロフ、掲示板、裏サイトを検索、監視し、生徒のネットいじめ、トラブルの防止および個人情報の保護に注力しました。	-	-	-

(2)ICT活用の定着化 個人情報漏洩防止、 情報の蓄積・共有化、 情報伝達の効率化 等	前年度に個人情報の漏洩防止、情報の蓄積・共有化、情報伝達の効率化等を目的として、教員へ業務用PCを貸与しICT環境を構築しました。本年度は、導入しましたシステムの安定運用に注力すると共に、ICT活用の定着化に努めました。	0.8	2.3	-1.5
3. 施設関係				
(1)高校校舎等の空調 設備更新	経年劣化等による部分的な不具合事象が発生していることもあり、空調設備の更新を順次進めました。	18.0	10.2	7.8
(2)第一体育館の壁面改修 および天井照明の更新	式典等のメイン会場となる第一体育館の照明を更新し、壁面を改修しました。	3.0	4.4	-1.4
(3)経年劣化箇所等の修繕	錆や腐食など経年劣化が進行している外階段や扉などの鉄製箇所について塗装・修繕を実施しました。また、防火扉の改修を行いました。	2.0	5.3	-3.3
4. 設備関係				
(1)教育研究用機器備品の 整備	サテネット(オンデマンド方式受験講座)ルームに16ブースを増設しました。 また、楽器等を購入しました。	7.0	6.2	0.8
(2)図書館の充実	選定図書を購入しました。	3.0	2.2	0.8
(3)その他の機器備品の整備	リソグラフおよびパソコン室のプリンターを更新しました。	2.0	1.8	0.2

### 3 財務の概要

#### (1) 貸借対照表

(単位:千円)

	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
固定資産	128,746,520	131,250,698	139,613,971	144,636,788	141,171,085
流動資産	33,074,300	35,270,983	34,867,021	34,262,492	42,411,998
資産の部合計	161,820,820	166,521,682	174,480,992	178,899,280	183,583,084
固定負債	24,364,864	23,988,884	26,379,925	26,002,815	27,865,293
流動負債	13,866,722	14,574,606	15,639,164	17,131,717	18,250,476
負債の部合計	38,231,586	38,563,491	42,019,089	43,134,532	46,115,768
基本金の部合計	204,870,448	209,699,436	219,683,777	224,534,329	235,247,505
消費収支差額の部合計	△ 81,281,214	△ 81,741,245	△ 87,221,873	△ 88,769,581	△ 97,780,190
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	161,820,820	166,521,682	174,480,992	178,899,280	183,583,084

#### (2) 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
学生生徒等納付金収入	19,384,107	18,979,715	18,832,838	18,842,190	19,021,617
手数料収入	841,532	801,000	831,009	813,163	779,659
寄付金収入	1,493,919	1,354,113	1,503,544	1,601,976	1,188,023
補助金収入	4,880,626	5,266,918	4,819,567	5,097,681	5,071,061
資産運用収入	519,865	628,076	652,708	672,313	673,581
資産売却収入	181,545	263,946	193,800	99,291	1,042,011
事業収入	676,555	677,231	674,422	627,914	586,854
医療収入	60,475,628	62,544,297	64,748,162	66,535,962	67,543,776
雑収入	831,639	654,957	687,298	795,057	686,936
借入金等収入	0	0	2,000,000	389,600	3,100,000
前受金収入	3,881,029	3,964,073	4,051,460	4,161,181	4,071,699
その他収入	28,217,226	31,737,974	34,622,958	37,327,773	41,335,915
資金収入調整勘定	△ 15,348,911	△ 15,995,763	△ 16,039,292	△ 16,593,036	△ 17,303,304
前年度繰越支払資金	19,274,851	20,074,899	21,346,743	20,949,700	19,696,159
収入の部合計	125,309,612	130,951,436	138,925,216	141,320,765	147,493,988

支出の部	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
人件費支出	37,792,776	38,335,082	39,500,847	40,603,156	41,090,317
教育研究経費支出	37,398,555	38,139,904	38,617,103	39,851,908	40,490,690
管理経費支出	3,162,022	3,095,794	3,266,693	3,710,637	3,974,937
借入金等利息支出	72,515	62,263	59,148	55,488	51,130
借入金等返済支出	712,000	662,000	824,500	924,500	830,500
施設関係支出	3,660,961	4,075,057	7,366,764	5,300,112	10,815,307
設備関係支出	2,835,522	2,665,364	4,801,431	3,328,463	4,055,873
資産運用支出	19,540,174	21,646,464	24,025,018	27,743,761	17,752,919
その他の支出	9,510,745	10,975,525	11,379,911	12,275,014	13,917,100
資金支出調整勘定	△ 9,450,557	△ 10,052,761	△ 11,865,899	△ 12,168,432	△ 12,764,008
次年度繰越支払資金	20,074,899	21,346,743	20,949,700	19,696,159	27,279,224
支出の部合計	125,309,612	130,951,436	138,925,216	141,320,765	147,493,988

## (3) 消費収支計算書

(単位:千円)

消費収入の部	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
学生生徒等納付金	19,384,107	18,979,715	18,832,838	18,842,190	19,021,617
手数料	841,532	801,000	831,009	813,163	779,659
寄付金	1,552,692	1,405,377	1,607,709	1,675,611	1,311,407
補助金	4,880,626	5,266,918	4,819,567	5,097,681	5,071,061
資産運用収入	519,865	628,076	652,708	672,313	673,581
資産売却差額	1,222	1,367	1,571	8,008	519,351
事業収入	676,555	677,231	674,422	627,914	586,854
医療収入	60,475,628	62,544,297	64,748,162	66,535,962	67,543,776
雑収入	831,545	669,573	687,198	792,313	686,846
帰属収入合計	89,163,774	90,973,554	92,855,182	95,065,154	96,194,153
基本金組入額合計(△)	△ 3,235,905	△ 4,828,988	△ 9,984,340	△ 4,850,552	△ 10,713,176
消費収入の部合計	85,927,869	86,144,566	82,870,842	90,214,602	85,480,977

消費支出の部	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
人件費	38,377,190	38,708,097	39,839,112	40,846,159	41,729,997
教育研究経費	42,689,519	43,906,207	44,561,582	46,458,059	47,429,261
管理経費	3,618,975	3,559,843	3,739,732	4,194,195	4,496,216
借入金等利息	72,515	62,263	59,148	55,488	51,130
資産処分差額	320,621	153,789	48,756	133,407	710,020
徴収不能引当金繰入額他	88,306	214,397	103,140	75,002	74,963
消費支出の部合計	85,167,126	86,604,597	88,351,470	91,762,310	94,491,586
当年度消費収支超過額	760,744	△ 460,031	△ 5,480,628	△ 1,547,707	△ 9,010,609
前年度繰越消費収支超過額	△ 82,041,958	△ 81,281,214	△ 81,741,245	△ 87,221,873	△ 88,769,581
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越消費収支超過額	△ 81,281,214	△ 81,741,245	△ 87,221,873	△ 88,769,581	△ 97,780,190

## (4) 主な財務比率

(単位:%)

比率名	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
帰属収支差額比率	4.5	4.8	4.9	3.5	1.8
消費収支比率	99.1	100.5	106.6	101.7	110.5
学生生徒等納付金比率	21.7	20.9	20.3	19.8	19.8
人件費比率	43.0	42.5	42.9	43.0	43.4
教育研究経費比率	47.9	48.3	48.0	48.9	49.3
管理経費比率	4.1	3.9	4.0	4.4	4.7
流動比率	238.5	242.0	222.9	200.0	232.4
負債比率	30.9	30.1	31.7	31.8	33.5
自己資金構成比率	76.4	76.8	75.9	75.9	74.9
基本金比率	97.6	97.4	97.1	96.4	96.4

※各比率の算出は日本私立学校振興・共済事業団発行の「今日の私学財政」の算式による。



## (5) 有価証券の状況

区 分	帳簿価格 (円)	時 価 (円)	摘 要
国債	99,673,000	103,520,000	保有銘柄数: 1
地方債	2,612,278,451	2,701,090,568	保有銘柄数: 26
政府関係機関債等	3,797,605,000	3,917,070,000	保有銘柄数: 33
金融債・事業債	1,769,115,800	1,795,042,000	保有銘柄数: 23
合 計	8,278,672,251	8,516,722,568	保有銘柄数: 83

## (6) 借入金の状況

借入先	借入残高 (円)	利率(年)	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	450,000,000	1.90%	平成30年3月15日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	650,000,000	1.90%	平成31年3月15日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	148,750,000	0.90%	平成35年3月15日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	18,000,000	0.60%	平成30年12月18日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	112,000,000	0.70%	平成35年9月15日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	35,700,000	0.70%	平成35年9月15日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	33,520,000	0.50%	平成31年9月17日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	49,000,000	0.50%	平成36年9月15日	土地・建物
日本私立学校振興・共済事業団	51,000,000	0.40%	平成32年9月18日	土地・建物
足利銀行	400,000,000	0.88%	平成30年1月4日	-
栃木銀行	400,000,000	0.88%	平成30年1月4日	-
足利銀行	1,600,000,000	0.49%	平成32年1月6日	-
栃木銀行	800,000,000	0.49%	平成32年1月6日	-
返済期限が1年以内の長期借入金	1,376,130,000	-	-	-
合 計	6,124,100,000	-	-	-